

交換留学定期レポート（9月）

H259401 熱田知里

フランスのリヨン第3大学（Université Jean Moulin Lyon 3）に約1年間の交換留学をします。フランスに到着して3週間が経ちました。

フランス到着～1週間

約14時間のフライトを経て8/21の夕方にシャルルドゴール空港に到着しました。すぐに飛行機を乗り継ぎ、サン＝テグジュペリ空港に22時ごろに到着しました。空港まで友人が迎えに来てくれて、そのまま友人の家に泊めてもらいました。友人の家は、Bourg-en-Bresse というリヨンから電車で1時間のところにあります。

友人宅に1週間ほど滞在しました。その間、友人と一緒に Annecy を観光したり、Lyon の大きなモールに行ったりしました。車での移動中、信号待ちで車のドアを開けようとする人に遭遇しました。モールやメトロの中、教会の入り口など至るところにお金を要求してくる人がいます。ネットでよく目にするフランスの光景を目の当たりにして、安全には十分に気をつけようと思いました。



Annecy の湖

ボートや水上バイクに乗っている人がたくさんいました。バカンスで訪れるフランス人を多く見かけました。



Bourg の教会

日曜日に行ったのでパイプオルガンの演奏が聞けました。ステンドグラスから差し込む光がとても綺麗でした。

寮やその他の手続きについて

私が留学するリヨン第3大学では大学が提供する寮がないため、CROUS（日本の大学生協的な組織）の寮や民間の学生寮、ホームステイなど色々な形態の住まいが紹介されていました。CROUSの寮は人気のため入ることができず、私は民間の寮に入居することになりました。必要書類のやり取りや、入居日の変更、敷金の支払いがうまくいかないなどさまざまな問題が生じましたが、何とか入寮することができました。留学先で出会った日本人の学生の中にも、寮が決まっていなかったり、手続きがうまくいかず寮は決まっているのに入居できなかったりする学生がいました。フランスの大都市での留学は、住まいを見つけることが一番大変なのかもしれません。

苦労はしましたが、寮に入居するまで何通もフランス語のメールを書いたり、フランスの銀行に一人で行って預入や振込をお願いしたり、日常的なフランス語学んで実践する良い機会になりました。環境が整ったので、やっと留学生活が始まったという実感が湧きました。



フランスの寮は studio, T1, chambre など色々な種類があります。この違いをあまり理解していなかったため chambre を選び、予約後にルームシェアだと気づきました。私の部屋には、ベッドと机、洗面台があります。キッチンとシャワー、トイレはルームメイトと共用です。一人の部屋よりもフランス語を話す機会が増えるので、ルームシェアにしてよかったと思います。

どの部屋もエアコンはありませんが、暖房（セントラルヒーティング）がついているので、冬の間は快適に過ごせそうです。

フランスに到着してから、寮の手続きのほかにも滞在許可の申請や保険の申請、銀行口座の開設やSIMカードの契約をしました。フランスはオンライン化が進んでいるため、行政手続きもオンラインで完結することが多いです。

留学する上で一番重要なのが、学生ビザの申請です。ビザもオンラインで申請できます。一度だけ東京のフランス大使館に行って必要な書類を直接提出しました。周りにフランスの学生ビザを取得している人がいなかったため、インターネットやChatGPTを使って情報収集しました。交換留学生のビザ申請は、大使館での面接の免除や専用の申請枠があり、一般的なビザの申請よりも簡単に申請できます。お盆くらいに大使館に行き、1週間でビザが届いて8/25にフランスに渡航できたという話も聞きましたが、寮の申請などでビザが必要になることもあるので、申請は早めにやっておいた方がいいです。

フランスの社会保険に加入する際に、出生証明が必要になりました。日本にいる間に取得

することもできますが、私を含め他の日本人留学生もリヨンの日本領事館へ戸籍謄本・抄本を提出して、発行してもらいました。

大学生活

大学の授業は、レベル別のフランス語の授業、フランス文化の授業が留学生の必修科目として用意されています。フランス語の授業は、オリエンテーションの週にテストが実施されて、その結果でクラス分けされます。このテストは、マーク式でリスニング、文法問題、語彙問題などが出題されました。配属されたクラスは、私のレベルよりも高度な授業だったのでついていくのが大変そうです。一番の問題は、先生の板書の文字が筆記体のような崩した字で読めないことです。

必修科目以外は、興味がある授業をとることができます。私はフランス語に自信がないため、フランスの学生向けの日本語の授業や日本文化の授業をとって少しずつ授業に慣れていこうと思っています。履修登録ができる期間は3週間と島根大学の履修登録の期間よりも長く、いろんな授業に参加してから履修を組めるのが利点です。

学食にも行ってみました。前菜、メイン、デザート（スイーツやフルーツ、チーズ）、パンを取ります。私の寮の近くのスーパーでは、お肉の種類が少なく値段も高いので、学食で久しぶりにお肉を食べました。ボリュームもあり、とても美味しかったです。



値段は3ユーロでした。毎日メニューが変わるそうです。お昼の時間帯しか開いていないのが残念です。

大学を出てすぐのところにマックもあります。行ってみました。日本のマックの方が美味しかったです。フランスのマックは、タッチパネルで注文します。日本語表記にもできます。よくわからない日本語のメニューが表示され、一緒にいた日本人と笑いました。

日常生活

お店やレストランに入ったら店員さんに Bonjour とあいさつして、退店する時には Au revoir や Bonne journée と言います。最初はフランス語であいさつしますが、発音が悪いのか見た目で判断されるのか店員さんには英語で話しかけられることが多いです。

寮のルームメイトはフランス人なのですが、私のフランス語に自信がないため、つい英語で話してかけてしまいます。

大学で道に迷った学生に話しかけられ、そこから連絡を取るようになりました。Bourgのレストランで、一人でご飯を食べていたら高校生の女の子に話しかけられ、連絡先を交

換しました。彼女たちはメイクもバッチリで服装も大人っぽく、同年代だと思って話していましたが、年齢を聞いてみると私よりも4、5歳年下だったので驚きました。私は実年齢より幼く見られていたようです。

渡航して1ヶ月も経っていませんが、フランスでの人間関係が少しずつ広がっている感覚があります。街で知らない人に道を聞かれたり、一緒にメトロの乗り場を探してもらったり、いろんな人と助け合って生活している感じがします。出会った人たちとは英語でコミュニケーションをとっているのですが、今後はもっとフランス語を話す機会を多くして、自信を持って日常会話ができるようにしたいです。